



秋が深まりました。紅葉の季節もそろそろ終わりでしょう。お早めに出かけて、燃える様な秋の絶景をお楽しみ下さい。風邪にご用心を

編集員一同

発行元 紀南教会 和歌山県田辺市 下屋敷町80 TEL/EAX: 0739-25-1191 E-mail: kinan-ch@beach.ocn.ne.jp H・P: http://www.kinan-ch.org/

「心に残る本」

その本との出会いは、全く偶然の事(とおもいつつ)、受けた衝撃は心深く残っている。礼拝時、上山牧師のメッセージに語られていた「沈黙」である。私の中では、迫害の中、処刑寸前の人々が最後まで神を讃美しながら、波の中へ命を

落として行った場面、「踏み絵」を目の前にし、心が葛藤する視線にイエス様が「踏んで良いんだ」と優しく微笑み返して下さり、その後、慟哭する場面が印象的で、記憶の中より消えない。だが、当時の私は「人間定年を迎え、自分を改め

くなくなった思いがし、気付けばあの本に登場する人々に心を寄せた。自分は一生懸命に生きてきた・・・とおごりも徐々にうすれ、その後、急にやってきた闘病生活も不安や恐怖心より「生きて出直したい」との思いの方が強かった。主人の同意も得られ洗礼を受ける事ができ、五年余の「聖書の学び」の中で、聖書の誕生が現在に至る歴史、様々な背景を具体的に学ぶ事ができ、自分の中で血肉となりつつ、旧約を学ぶ現在は、素直に吸収できている。決して周囲が急変しているのではなく困難に立ち向かう力が身につけてきた。



本当に八方塞がりの時は、天のペースを神様が開けて下さっていても、自分の身丈で見たり聞いたり動いていながら気付かず、同じ場所から、抜け出せない。教会から、「今日の聖書箇所」と題して、毎日の聖書朗読箇所を週報に載せています。現在(この原稿を書いている時点)は、新約聖書の使徒言行録を読んでいます。【今週の聖書朗読】が始

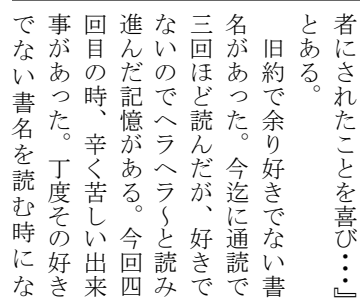
『夫婦！今を考える』

紀南教会牧師 上山耕司

結婚三五年、四人の子供が巣立ち、今二人だけの生活を送っている。改めて、互いがなくてはならない、かけがえのない存在であることを強く感じている。しかし、悲しいかな、やがて確実に一人にならなくてはならない。妻に頼ることの多い、私のような意気地のない人間は、果たしてどうなるのであるのか。このことは老い行く中で最大の試験となるであろう。ただ、今はまだ先のこと、現実のこととしては考えられないのが正直なところである。「夫婦は一体となる」

創世記二・三四) 二本の木が近く寄り添い、支え合う中で、互いの隙間が埋まっていき、あたかも一本の木のように重なり合っていく。切っても切り離すことのできない存在となる。それが一方の死によって生木が裂かれるように引き離される。これはまさに残酷なことである。たとえそれが一時の別れであろうと、私には耐えられな

い。「あなたがたを襲った試験で、人間として耐えられないようなものはなかったはずである。神は真実な方です。あなた方を耐えら



人生の最後、そのために最初も造られたのだ。我らの時は、御手の中にあり神言い給う「全てを私が計画した。青年はただその半ばを示すのみ。神に委ねよ。全てを見よ。しかし恐れるな！」と。

一人相撲

まっ、毎日読み続けている内に、励まされ、慰められ、心を温かくしてくれて、力づけられた。この様に深い愛の箇所とは思っていません。胸が一杯になって涙が出た。次に読む時は、どのような思いで読むのだろうかと思っている。本を読んでいると、会った事がない人、行った事も見た事もない所の情景が目には浮かんでくる。特に聖書は不思議。読む毎に示される事や思いが違ってくる。その時に応じて的確に答えてくれるが、たまに何も応えてくれない時がある。「言って！」と思うが応えてくれない。可成り昔の事ですが、読んでいて、居たまま寝てしまった時があった。「何て事よ！」と嫌になった。読みながら他の事を思っている時もある。(これを読むというのでしょうか?) 又、読んでいる内に涙がツーツと流れる時や嗚咽に近い日もある。ごく最近では、使徒言行録五章「・・・一同はこの意見に従い、使徒たちを呼び入れて鞭で打ち「チツ」と舌打ちをしながらかみみみしして、アア何て私は・・・と思う。その続きには「・・・使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び・・・」とある。旧約で余り好きでない書名があった。今迄に通読で三回ほど読んだが、好きでないのでヘラヘラくと読み進んだ記憶がある。今回四回目の時、辛く苦しい出来事があった。丁度その好きでない書名を読む時にな